

令和 7 年度第 1 回小林市地域公共交通活性化協議会・地域公共交通会議 会議要旨

開催日時：令和 7 年 5 月 20 日（火） 14 時 00 分～15 時 00 分

開催場所：小林市役所 3 階 第 3 会議室

出席者等：出席委員 9 人、代理出席 3 人、欠席委員 6 人、事務局 3 人

【会議要旨】 ※ [] 内は話者

1 開会〔事務局〕

2 会長あいさつ〔会長〕

地域公共交通の現状については、人口減少の急速な進展や、運転手不足の深刻化、公的負担の増加等により、その維持・確保は容易でなくなっている。また、地域公共交通機関の利用者は、コロナ禍前の利用状況まで回復していないという非常に厳しい状況にあり、本市においても例外ではない。まちづくりや市民生活に影響を与えるものと危惧している。

このような中、本市の「地域公共交通計画」は、対象期間が来年度（R8 年度）までであるため、今年度から次の公共交通計画の策定に向けた取組を進めていく。現状を踏まえ、当協議会で委員の皆様と、十分に協議をさせていただきながら進めてまいりたいと考えているため、引き続き、御理解・御支援をお願いしたい。

3 委員及び事務局職員自己紹介〔委員、事務局〕

4 説明

（1）小林市地域公共交通活性化協議会及び地域公共交通会議概要について

【資料 1 P 1～4】

＜質疑＞ なし

5 議事

（1）小林市の公共交通事業の令和 6 年度事業実績及び令和 7 年度事業計画並びに評価について【資料 2 P 5～17】

＜質疑＞

〔Q. A 委員〕

デマンド型交通に替わる新たな移動手段について、何か現段階で検討しているものはあるのか。

〔A. 事務局〕

現段階で特定の移動手段について検討してる訳ではない。新たな移動手段の検討については、この会議の後に公共交通と福祉の連携の部分で説明させていただく。

◆原案承認

（2）令和 8 年度地域内フィーダー系統確保維持計画について【資料 3 P 18～27】

国から市コミュニティバスの補助を受けるために必要な計画であること、路線ごとの目標、国庫補助金の算出方法について、概要を説明。

＜質疑＞

〔Q. B 委員〕

コミュニティバス乗車人員の目標数値は、小林のみの分で野尻地区は入っていないのか。

〔A. 事務局〕

野尻地区は入っていない。野尻地区も含めた目標人数は資料2の5ページの令和7年度の目標値欄32,800人。

〔Q. C委員〕

この計画は、国から補助を受けるためのものであり、補助を受けるにも一定の要件がある。この計画にはその要件を満たしている路線が記載されているため、現状運行している路線と切り離して考えなければならない。

◆原案承認

（3）令和7年度小林市地域公共交通活性化会協議会事業計画（案）、収支予算（案）及び監査委員の選任について【資料4 P28～29】

令和8年度計画策定に当たり、今年度市民アンケートを行いたいこと、またアンケートを行うに当たり、国庫補助金を利用することについて、概要を説明。監査委員の選任について説明。

＜質疑＞

〔Q. D委員〕

市民アンケートの内容について、可能であれば、乗り継ぎが改善された場合、公共交通機関を利用するのかという項目をアンケートに入れてほしい。JRとしても乗り継ぎを改善し、交通結節点での利便性の向上を検討していきたい。

◆原案承認

6 その他

公共交通と福祉の連携について〔事務局〕【資料5 P30～34】

令和6年度からの取組として、庁内の関係課において検討会を立ち上げた。主な目的は当市における持続可能な移動手段の研究と実施である。令和6年度は「移動需要の収集」に取り組み、庁内の関係課で真に移動支援が必要な市民がどの程度いるのかについて検討した。令和7年度は「移動手段の研究」ということで、まずは現状の移動手段の整理を行いたい。他地域の優良事例の研究も行いたい。次期公共交通計画に当該取組で得られたものを反映させたいと考えている。

〔Q. E委員〕

中高生の市外への流出が増えている。高校の授業料が無償化されれば市外に出て行く生徒は更に増える。宮崎市内の私立高校ではスクールバスを展開している。福祉との連携も大事だが、企画政策課と学校教育課が連携して、市外に通学している生徒がどれくらいいるのかを把握して、早めに対策をうつべき課題ではないか。小林市だけの問題でなく、広域的に県や関係機関なども含めた検討が必要だと考えている。

7 事業者の近況報告

①バスの利用状況等について（宮崎交通株式会社）

路線バスの利用状況は、昨年度比98%で微減。小林市の落ち幅が大きい。都城地区等を含む県西地区で落ち幅が大きい原因究明に努めたい。運転手不足や燃料高騰で、交通事業者単体での運行維持に限界が近づいている。福祉との連携や、接続の見直しにより、利便性を上げて乗車率向上を目指したいので今後とも各関係機関の連携をお願いしたい。

②鉄道の利用状況等について（JR九州宮崎支社）

今年の3月に宮崎交通とJRで包括連携協定を締結した。宮崎交通とは結節点が多いため、まずはポイントとなる部分から接続の改善を目指したい。直近のトピックスとしてデジタル切符Ma a Sの1日乗り放題500円の取組を始めている。この取組を今後拡大して

いきたいと考えている。

③交通情勢について（小林警察署）

昨年度と比較して、交通事故件数は減少しているが、死亡事故件数は上昇。小林だけではなく、県内みても同じような状況。高齢者による事故が大半だが、20代の若者の事故も多い。各委員もそれぞれの立場で交通安全に対する協力をお願いしたい。

また、警察は道路管理者として、信号や標識の設置及び廃止も行っている。意見があれば聞かせてほしい。

8 閉会〔事務局〕